百木の長にして陽木なり、其性温にして厲し、威有て猛からず、これを望めば巍然として、君子寛廣の德あるが如し、百歳を經る者、其枝横斜し、千歳に及び甚だ多壽なり、最黒松（説鈴）赤松を以て貴とす、黒松其樹皮厚く、其葉深青長し、赤松其樹皮薄く、其葉淺青短し、俗にこれを雌雄にするは誤なり、皆脂あり、又老松の根下に茯苓を生ず、是松の餘氣なり、春粧を抽で花を生ず、後新葉生ずる時、新條の本に白漿を發し、其漿中に必ず二蟲あり、雌雄なり、夏に至り羽化して散出す、黄虻の小なるが如し、其蟲赤松に多し、五鬚松（泉州府志）白松（華夷考）海松（本草綱目）等の類には稀なり、又松卵は夏中生じ、花と其時を異にす、明年に至りて熟す、其類屬の中に、冬生ずる者もこれあり、又偶枝間に粧に似たる者數十生ず、其色松皮の如し、蓋し粧の變生なるべし、又偶老松斷枝の痕に、夏より秋に至て蕈を生ず、松翁芝をうじと云ふ、其形地に生ずる松蕈に異ならず、性甚だ硬し、世俗に云ふ、これを食すれば壽を延べ、或は煎じ服すれば疫熱を解すと、又寄生は其枝幹に寄寓す、葉對生し、狹細淺緑色、夏深紅色の筒花を開く、至て密なり、其葩瓣の本、即實にして青緑色、明年春夏の際に至り、熟すれば深紅色、實中粘氣甚し、枝幹に落て自ら蒙る穆子の初生に似たり、其根蔓の如し、偶根に花を開き實を結ぶ、凡寄生は桑、桃、柳、櫧、櫻、梅、梨、朴樹等皆これあり、各其樹に因て狀を異にす、是其樹の餘氣變生する者なり、女蘿（松蘿釋名）は深山の樹木の皮間より生じ下垂す、絲の如し、即寄生なり、

〔倭名類聚抄十七菓〕松子。　脚氣論獨活酒方云、獨活一斤、五葉松五兩、（合藥七種之内也、餘不具載、）楊氏漢語抄云、五粒松子、（子原脱今據一本補）五葉松子、和名萬豆乃美、

〔箋注倭名類聚抄九果蓏〕肘後方、療氣有獨活酒方、用獨活附子、無松葉、千金方有松葉酒、療脚弱十二風痺不能行、（略）○中證類本草引蕭炳云、有五葉者、一叢五葉如釵、名五粒松、子如巴豆、新羅往々進之、又載開寶本草云、海松子生新羅、如小栗、三角、其中仁香美、東夷食之當果、與中土松子不同、亦即是也、李時珍曰、海松子、出遼東及雲南、其樹與中國松樹同、惟五葉一叢者、毬内結實、大如巴豆而有三